

恐竜が私に教えてくれたこと

会員 高橋 幸宏

1 私の趣味は、①しりとりに、②けん玉、③ボクシング、④恐竜図鑑を読むこと、⑤航空事故の調査、⑥アイドルと握手をすること、である。②③はかうじて他人と被ったことがあるが、その他は誰とも被ったことがない。本稿の執筆依頼は、おそらく⑥の話に期待されてのことだと思うが、期待を裏切って、ここでは恐竜の魅力をお話したい。

2 恐竜の魅力というと、誰もがまず思い浮かべるのは、そのスケールの大きさである。ティラノサウルスの成体は15メートル近くあったといわれており、世界最大といわれるアルゼンチノサウルスに至っては、35メートル以上と推定されている。法隆寺の五重塔を横倒しにしたような怪物が、我が物顔で地上を歩く姿を想像すれば、誰もが胸躍るに違いない。

しかしながら、私にとっての恐竜の魅力は、スケールの大きさではなく、新しい知識を学ぶ楽しさにある。恐竜は、「歴史と恐竜はいくら研究しても無駄である」という格言があるくらい、新しい知識が次々と更新され、従来の知識が使い物にならなくなる学問である。例えば、オビラプトルという恐竜は、卵の化石の近くで発見されたことや、卵を割ることに適したくちばしの構造から、長年にわたって他の恐竜の卵を盗んで食べていた恐竜だと考えられてきた（オビ＝卵、ラプトル＝泥棒）。ところが、90年代半ばになり、卵に覆いかぶさる格好でオビラプトルの化石が発見され、卵からオビラプトルの胚（胎児）が発見されたことにより、当初の化石は自らの卵を温めていた姿であり、実際には母性の

強い恐竜であることが判明した。とんでもない冤罪だと思う。最近でも、中国遼寧省の地層から多数の羽毛恐竜が発見されたことにより、ティラノサウルスにも羽毛が生えていたという学説が人々の耳目を集めているし、化石に残されたメラニン色素の分析により、皮膚の色が判明した恐竜もいるなど、恐竜研究には新しい発見が尽きない。このように、新しい化石が発見されるたびに情報が次々と更新され、新しい知識を学ぶ楽しさがあるところが、私にとっての恐竜の魅力である。

幼い頃の私は、祖父母が購入してくれた恐竜図鑑を、手元にある過去の恐竜図鑑と照らし合わせながら読むのが好きだった。両親は、私から恐竜図鑑を取り上げて学校の勉強をさせたかったようであるが、恐竜は私に、学校の勉強とはまた違った意義のある「新しい知識を学ぶ楽しさ」を教えてくれたのである。

幼い頃の私は、ずっと、恐竜博士になりたかった。

3 紆余曲折あり、私は、恐竜博士ではなく弁護士になった。ご存じのとおり、弁護士の仕事は実に骨の折れるもので、世の中に1つとして同じ案件はなく、案件ごとに新しい知識を更新し続けなくてはならない。しかしながら、私は、恐竜図鑑を楽しみにめくっていたあの頃と同じように、わくわくしながら仕事に臨むことができています。これも、恐竜が私に、新しい知識を学ぶ楽しさを教えてくれたからこそである。これからの弁護士人生50年も、新しい知識を学ぶ楽しさを忘れず、様々な分野に興味を持ち、すべての体験を余すところなく吸収したいと思う。